

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、算数と国語のどちらも東京都の平均を上回っている。しかし、記述式の問題には、やや苦手意識をもつ児童がいる。  
 ○意欲的に学習に取り組む児童が多いが、問題解決に向けて論理的に考えたり、自分の意見や考えを友達に伝えたりする活動が苦手な児童が多い。  
 ○今までに学習したことを関連付けたり、自ら発展的に考えを広げようとしたりすることが苦手である。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題  
 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

○集団検討場面での主体的な態度を促す指導法の改善を図ること。  
 ○計画に基づいた板書や効果的なICT機器の活用とノート指導を徹底すること。  
 ○授業のユニバーサルデザイン化、個別最適化に向けて、以下のように指導法を工夫する。①必要な情報を取り入れる。②情報を比較する。③意図、背景、理由から考えをもつ。④協働学習で練り上げる。⑤音声言語化、文字言語化し、伝える。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

○今年度重点とする児童の学びに向かう力の育成をめざし、学級活動(話し合い活動)を充実し、身近な生活から問題を見出し、児童同士が合意形成と協働的な活動を通して自己実現を図る取組を推進する。  
 ○児童自身が学びのめあてを立て、自己調整しながら主体的に学習に取り組めるようにするとともに、児童同士が互いのよさを認め・尊重しながら学び合う場を意図的・計画的に設けることで、児童同士の心の絆と確かな学力の育成を図る。  
 ○ICTを活用した個別最適な学びや協働的な学びの推進を行う。  
 ○教科・領域の単元の中で自由進度学習に取り組めそうなところを、各学年で確認し、計画的に実施する。  
 ○SDGsを核とした探究的な活動による総合的な学習を実施する。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードと志村小アドバンス学習の確立	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「板橋区授業スタンダード」をふまえ、「志村小学習スタイル」(志村小スタンダード(つかむ→めあて→考える→学び合う→まとめる→振り返る)、志村小アドバンス(自由進度学習)を行い、自己調整力を育む。	○課題から何を問われているのかを読み解き、各自で主体的に考えながら進められるように、読み解く時間を確保する。 ○課題を読み解くための発問や補助発問の仕方を工夫していく。	○各教科等の学びを、総合的な学習の時間につなげ、教科横断的な学びにする。また、各学年の総合的な学習の時間の取組に自由進度学習の手法を取り入れていくようにする。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○小学校と中学校が連携して取り組む中で、有効な手立てや指導方法を学び合う機会をつくる。 ○高学年の学級活動や総合的な学習の時間等において、中学生を小学校にゲストとして招き、キャリア形成に役立つ授業をするなど、将来を見据えた未来型の板橋iカリキュラムの場を設け、小中一貫教育の推進を図る。	○各学年の教科等の学びが横断的・総合的に行われるように年間計画を立て、確実に実施する。また、学年の教員間で交換授業を行うなど、一部教科担当制を取り入れ、効率的に教科の学習を進められるようにする。 ○総合的な学習の時間においては、それぞれの学年の児童の願いや実態に応じた課題を設定し、学習の過程では、大枠として「志村小学習スタイル」を取り入れたら、自由進度学習の手法を取り入れたらする。	○家庭学習や自由進度学習におけるすららドリルやミライシードの具体的な活用方法を考え、実施する。成果の上があったものをOJTで共有する。 ○自由進度学習ではスプレッドシート等を活用し、児童の活動の様子を効果的に見取り、必要に応じて声かけや新たな課題提示を行う。 ○協働学習時の効果的な教師の声かけなどについて外部講師の助言を得ながらまとめ、職員で共有する。

